

8月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

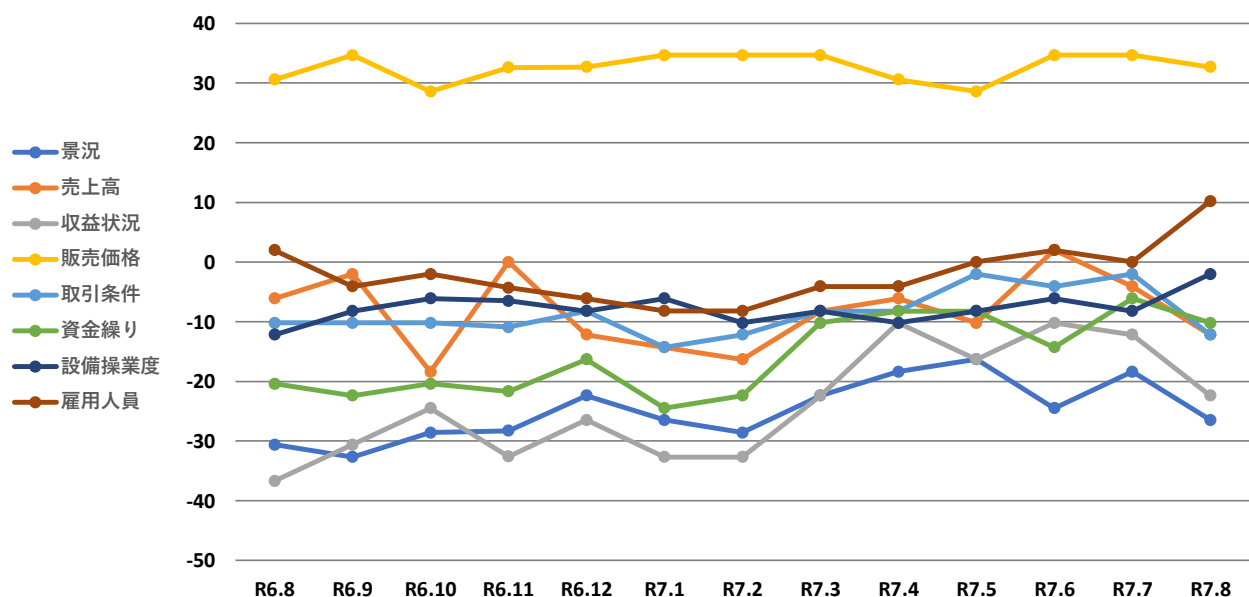
令和7年8月のD I 値は8指標中、「設備操業度」「雇用人員」が上昇、「景況」「売上高」「収益状況」「販売価格」「取引条件」「資金繰り」が下落となった。

2. 県内中小企業の景気の現状

県内中小企業の景況は依然厳しく、物価・資材費・人件費の高騰や人手不足に加え、猛暑と少雨が長引き価格高騰・消費低迷が深刻化している。製造業では、食料品で引き続き製造原価・資材高騰の影響が大きく、収益改善に至らず。縫製業はコスト増を転嫁できず、老朽設備の維持や機械トラブルが問題となっている。木材関連は建築確認の遅れによる影響が続いている。印刷業は稼働日数減と紙離れ、価格転嫁に苦慮。生コンクリートは、資材高と工事減少、出荷の低調もあり厳しい。鉄鋼・金属は需要の停滞や人材不足、国際不安が重荷。非製造業では、卸売業で猛暑と水不足による新米の流通価格上昇の可能性あり。小売業は食品が堅調、衣料が好調に転じたが住関連は低迷。クルーズ船寄港で売上増もあり。安定需要確保が課題。電気機器はエアコン需要が一段落し、今後は省エネ商品への取組が必要。畳業は酷暑で新築現場の遅れが多い。商店街は阿波踊りで売上増も猛暑で秋物は鈍い。サービス業では、自動車整備で中古車は堅調も新車は減少。旅行業はコロナ融資返済やバス代高騰で経営が圧迫され、後継者不足も課題。建設業は工事件数の減少が多く、単価も厳しい。運輸業は燃料高止まりの中、売上微増も依然厳しく、運賃見直しやコスト負担への対応が迫られている。

	R6.8	R6.9	R6.10	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	前月比
景況	-30.6	-32.7	-28.6	-28.3	-22.4	-26.5	-28.6	-22.4	-18.4	-16.3	-24.5	-18.4	-26.5	-8.1
売上高	-6.1	-2.0	-18.4	0.0	-12.2	-14.3	-16.3	-8.2	-6.1	-10.2	2.0	-4.1	-12.2	-8.1
収益状況	-36.7	-30.6	-24.5	-32.6	-26.5	-32.7	-32.7	-22.4	-10.2	-16.3	-10.2	-12.2	-22.4	-10.2
販売価格	30.6	34.7	28.6	32.6	32.7	34.7	34.7	34.7	30.6	28.6	34.7	34.7	32.7	-2.0
取引条件	-10.2	-10.2	-10.2	-10.9	-8.2	-14.3	-12.2	-8.2	-8.2	-2.0	-4.1	-2.0	-12.2	-10.2
資金繰り	-20.4	-22.4	-20.4	-21.7	-16.3	-24.5	-22.4	-10.2	-8.2	-8.2	-14.3	-6.1	-10.2	-4.1
設備操業度	-12.2	-8.2	-6.1	-6.5	-8.2	-6.1	-10.2	-8.2	-10.2	-8.2	-6.1	-8.2	-2.0	6.2
雇用人員	2.0	-4.1	-2.0	-4.3	-6.1	-8.2	-8.2	-4.1	-4.1	0.0	2.0	0.0	10.2	10.2

DI値の推移



徳島県 中央会情報連絡員報告総括表 (令和7年8月)

情報連絡員数	49	名	回答者数	49	名	回答率	100.0	%
--------	----	---	------	----	---	-----	-------	---

業界の景気動向(前年同月比)

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員			業界の景況		
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
製造業	食料品	0	4	0	0	4	0	1	3	0	0	4	0	0	3	1	0	3	1	0	4	0	0	4	0	0	3	1
	繊維工業	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0
	木材・木製品	0	1	5	1	4	1	1	4	1	0	5	1	0	2	4	0	4	2	0	4	2	0	5	1	0	3	3
	紙・紙加工品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	印刷	0	1	1	0	2	0	2	0	0	0	1	1	0	0	2	0	2	0	0	1	1	0	2	0	0	0	2
	化学・ゴム	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	窯業・土石製品	1	0	1	0	2	0	2	0	0	0	2	0	1	0	1	1	0	1	1	1	0	0	2	0	1	0	1
	鉄鋼・金属	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0
	一般機器	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	電気機器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	輸送機器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		1	12	7	1	18	1	6	13	1	0	18	2	1	11	8	1	15	4	1	16	3	0	19	1	1	12	7
非製造業	卸売業	0	3	0	1	2	0	1	2	0	0	3	0	0	3	0	1	2	0				2	1	0	0	2	1
	小売業	1	4	2	0	6	1	3	4	0	0	5	2	0	5	2	0	5	2				0	7	0	0	6	1
	商店街	1	2	1	1	3	0	2	2	0	0	2	2	1	1	2	0	3	1				1	3	0	0	3	1
	サービス業	2	3	1				2	4	0	0	5	1	0	5	1	0	5	1				1	5	0	0	4	2
	建設業	1	4	1				2	4	0	0	6	0	0	6	0	0	6	0				2	4	0	1	4	1
	運輸業	1	1	1				1	2	0	1	2	0	1	1	1	1	2	0				0	3	0	0	1	2
	その他	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0	0	0	0
小計		6	17	6	2	11	1	11	18	0	1	23	5	2	21	6	2	23	4				6	23	0	1	20	8
合計		7	29	13	3	29	2	17	31	1	1	41	7	3	32	14	3	38	8	1	16	3	6	42	1	2	32	15

【景況関連の報告】

【製造業】

<食 料 品>

1. 味 噌・みその生産量は、前月比88.1%と大幅に減少したものの、前年累計比99.5%でほぼ前年並み確保。出荷量は、前月比101.0%とやや回復したが、前年同月比97.5%、前年累計比98.8%と前年を下回る水準で低調に推移している。製造原価の高騰をカバーするため販売単価の見直しを図っているが、収益状況の好転には至っていない。また、6月中旬以降の少雨と猛暑が長引くなか、物価高騰と消費低迷が出荷量減少に大きく影響しており、今後の動向が懸念される。
2. 漬 物・資材高騰の影響が大きく、利益を大きく圧迫している。最低賃金の上昇幅を注視している。

<繊維・同製品>

3. 縫 製・引き続き、仕入他諸経費の増大が激しいにもかかわらず、売値に反映できない状態が継続中。工程設備については、日本国内で調達不能の機械のトラブルが続いている。機械に精通している企業は、極めて少なく、老朽化した設備を補修しつつ維持している状況である。この現象は弊社に限らず、日本の同業界での共通問題と化している。日本で生産している企業がないこと、海外から輸入しても圧力容器検査で問題が生じることなどを考えると、政府としての対策が必要と思う。人材確保手段として、特定技能の縫製業の資格を申請中である。

<木材・木製品>

4. 製 材・4月の建築基準法改正で、建築確認が遅れている状況が続き、相変わらず木材の動きは悪く、製品単価も横ばい。製材所は人件費や資材費高騰でコスト割れの状況。さらに丸太が不足苦戦している。プレカット工場の稼働率は持ち直したが、例年と比較して多くはなく、若干増えてきた非住宅需要に期待しているところ。
5. 製 材・建築基準法改正により確認申請に時間を要するようになり、住宅着工に遅れが生じ、この影響により住宅需要の停滞、工場稼働低下に繋がっている状況である。
6. 木 材・今年度4月からの、木造住宅建築設計に構造計算込みになってから、いろんな建材の多様化による価格の上昇等、今現在木材住宅が大変建ちにくい状態にあると思います。私たち木材流通業界は、高望みせず毎日毎日を大切に、着実に前に進んでゆくことが一番と考えます。

<印 刷>

7. 印 刷・8月は休みが多く、売上高の少ない月になる。一方で原材料費、エネルギー費と値上げを繰り返している中、3~5%程度の価格転嫁なら比較的受け入れられている雰囲気がある。この上に人件費上昇分までとなると顧客の反応も厳しくなるようだ。人件費の高騰、人手不足問題は印刷業界に着実にダメージを与えている。今後は生産性の向上と付加価値の高い製品の提供が不可欠だ。お客様からさらなる需要を引き出す工夫と実行を積み重ねて行くことが重要だ。また比較的時間に余裕がある時期だからこそ、将来を見据え、意識的に新しいことにチャレンジする余裕を持ちたい。新たな印刷需要につながる営業活動にも積極的に臨み、次の成長の足掛かりとしたい。
8. 印 刷・コロナ以前から8月はお盆休みもあり稼働日数も少なく業績の良くない月ではあったが、今年も多くの組合員の業績は芳しくなかったようだ。販売価格は少し上がっているにもかかわらず、売上の減少が続いている。ペーパーレス化の波は止まらず仕事は減少している中お客様の困りごとに答えられる社内体制の構築を進めているが、結果はすぐでるわけではなく根気強くやっていくしかないようだ。

<窯業・土石製品>

9. 生 コ ン・8月の出荷数量は、対前年同月比15%減少であった。4月～8月の通期においては4%の減少にて、出荷状況は減少傾向にある。要因として、新規大型公共工事の減少及び資材費の高騰及び現場監督不足により予算執行が進まず先行き不透明となっている事が挙げられる。収益については、価格引上げにも関わらず、資材高騰及び大幅な出荷数量の減少という結果により、経営環境は依然として厳しい。
10. 生 コ ン・8月の出荷量は昨年同月と比べて約10%増加。昨年同月より増加したが微増であり、お盆休みもあり出荷は低調。

<鉄鋼・金属>

11. 鉄 鋼・業況感は緩やかな回復を示しているが、現状は需要が停滞傾向にあり売上げが伸び悩んでいる。また、人材不足の課題及び原材料価格や人件費などの増加もあり、厳しい経営環境が続くそうである。
12. ス テ ン レ ス・景況感は先月に比べ大きな変動は感じられない。国内においては、消費者物価上昇の継続が消費者マインドの改善に遅れをもたらし、顧客メーカーの設備投資意欲への刺激減少が心配される状況。海外においては、代理店の方針変更もあり一時的に受注の踊り場的な鈍化が見られている。また、通商問題による世界経済を通じた間接的な影響等にも留意する必要がある。

<一般機器>

13. 機 械 金 属・一部には景況感の持ち直しの動きも見られるものの、引き続き、原材料費、労務費、エネルギーコストの高騰に加え、経済・外交政策の変化や国際情勢の緊迫化など、諸々の不安定要因により、先行きが見通せない不透明な経営環境に大きな変化は見られない。また、従業員の確保や生産性向上、人材育成などが、依然として、経営上抱える課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸 売 業>

14. 食 糧 卸・農協等集荷業者が生産者に支払う概算金が昨年の1.5倍程度となっており、米価が下がる可能性は無く、高温と水不足の影響で新米の作柄次第ではさらに流通価格が上がる可能性が有ります。

<小 売 業>

15. ショッピングセンター・全館の売上は102.4%、客数は100.7%で客単価は101.7%です。食品は101.9%堅調に推移しています。衣料は108%と久々好調です。住居関連は95.6%と若干落ちていきます。
16. ショッピングセンター・お盆期間中はクルーズ船寄港の影響もあり、組合員店舗の売上は上昇しているようだ。インバウンドに頼ることなく普段でも安定した売上を確保することが今後の課題となりそうだ。
17. 電 気 機 器・猛暑によるエアコンの需要も一段落し、その他省エネ商品(LED等)への取組が必要。今後はエアコンのような省エネ家電に対応した、補助金の追い風があればなお拡売につながる。
18. 量 ・猛暑の中、依頼はあっても涼しくなったらやってほしいという一般家庭からのものがほとんど。いつ涼しくなるのか、9月には仕事ができるのか。新築現場も遅れているところが多い。

<商店街>

19. 徳島市・4日間とも阿波踊りがあり、売上が上昇した。例年の阿波踊り時期より、昼間の人の流れが多かったように思う。
20. 徳島市・猛暑の影響で秋物が全く動かず厳しい状況が続いています。
21. 鳴門市・鳴門市阿波おどりにて、大道商店街はおどり広場として、大変盛り上がりました。ありがとうございました。

<サービス業>

22. 自動車整備業・8月度の自動車登録状況について、中古車登録台数は登録車・軽自動車ともに前年を上回ったが、新車登録台数はともに減少。登録車の新車販売台数は対前年度比7.8%減、軽自動車の新車登録台数は11.7%減となり、トータルでは5.9%減という結果。全国的にみても、新車販売はマイナスとなっている。景気動向調査では消費などで弱さが見られると指摘しており、その状況が新車販売市場でも浮き彫りになったようである。しかし、ユーザーの新車購入意欲は底堅く推移しており、また秋にかけて販売台数を伸ばしそうな新型車が多くリリースされることから、プラスを回復する可能性は十分にある。
23. 旅行業・コロナ融資の返済が始まり、苦慮している会員が多くあります。基準資産で登録更新が出来ず種別変更をする会員もあります。更には秋からのバス代の値上げもありツアー料金も値上げしていき、旅行を諦めるお客様も出てきています。今後益々徳島県の中小の旅行業は、後継者不足、従業員確保、資金繰りなど経営が厳しくなる会員が沢山あります。
24. 土木建築業・○設計人数(少数減)：技術員単価増により前年度と大差なし。○人員増加(企業努力)による設備追加：電子機器増。○収益・施設投資：国・4月から技術員単価増により各給与増額、前年度と大差なし。10月14日に向けて器材等準備。○雇用人員：設計人数(2～3名減)、配置人員数名増。8月1日から女性技術者(資料作成業務)採用。○業界の景況：国職員の削減、能力不足等の上、予算が例年より国土強靱化の終了[防災事業の減]により前年度より26%減ですが、現場労働者・技術員不足により、技術支援業務は(当組合も含む)忙しい。
25. ビル管理・前年同期と比べ大きな変化はありません。清掃業においては、引き続き人手不足対策が課題となっています。このため、引き続き、ワークライフバランスに配慮した働きやすい職場環境の整備を進めるとともに、外国人労働者の活用を図るためのサポート体制の強化に取り組んでいるところです。宿泊業においては、阿波踊り及びお盆の時期に例年どおり高稼働となりました。客室清掃員の絶対数が不足する中でしたが、各現場間の調整により何とか対応できました。インバウンド観光客をはじめ学会等による宿泊者増加時への対応が課題となっています。

<建設業>

26. 鉄骨・鉄筋工事業・鉄骨は物件、見積りともに少なく、最低賃金は上がるが加工単価は上がらない。年明けから物件が出てくるとの見込みがあっても適当な小物件は少なく、単価が厳しい。異常な暑さで厳しい労働環境が続いている上、コロナの再流行もあり、健康管理に気を抜けない。
27. 建設業・発注工事件数は減少しているが、請負金額は大型工事の発注より増加している。建設資材価格の高騰や人件費の上昇があるため、実質の公共事業は減少している。国土交通省では、12月に標準労務費を示し労働者への賃金の行き渡りを行うことから、積算体系の見直しが急務である。

28. 板 金 工 事 業・工事件数は少ないままの状態が続いています。公共工事も出始めていますが、例年より少ない状況です。9月ごろから少しずつ動きそうな状態です。
29. 電 気 工 事 業・徳島県内 令和7年8月分の戸建住宅新築件数142件(前年比97.3%)
30. 解 体 工 事 業・大型解体工事についての案件は少なくなっているが、一般戸建て住宅の見積等の引き合いは堅調である。徳島市においては昨年より空き家住宅の相談会が開催されており、引き続き今年度も9月に開催されるので、相談員の派遣依頼により、当協会も参加している。

<運 輸 業>

31. 貨 物 運 送 業・8月の売り上げは対前月比+10%、対前年同月比+8%、累計対前年度比+13%、累計利益は対前年度+4%と微増となりました。全国組合計では対前年度比売上、取引件数他5か月連続減少が続いています。運賃指数1件当り昨年度比プラス、運賃の見直しが進んでいる結果と思われますが、依然として燃料価格は高値で推移、十分な値上げには至っていない、又フェリー航送料の値上げ要請もあり、さらなる値上げ交渉が必要と思います。
32. 貨 物 運 送 業・新規の組合員さんが加わり、組合にとって新しい風が吹いているのを感じる。関わる全ての組合員さんへプラス方向に刺激があれば、モチベーション向上にもつながるだろう。未だにマイナス面はあるが、物流自体が動き出し右肩上がりに持っていける様に努力をしていく。
33. 貨 物 運 送 業・全体としては、荷主企業のお盆休みもあり売り上げは減少。原木の輸送事業者からは8月は例年原木輸送が落ち込むとのこと。宅配関係事業者からはお盆は帰省のためのスーツケースや阿波踊り関連の荷物が増えたとのこと。